

平成26年9月18日(木)・19日(金)消防訓練の実施報告

18日と19日は同じ内容の訓練を実施。教職員は2日のうちどちらか1日に参加。

18日の参加者数は、大学教員43人、大学職員16人、専門教職員17人。

19日の参加者数は、大学教員20人、大学職員18人。

以下は、18日と19日の消防訓練の実施結果をまとめて報告するもの。

1. 部分訓練について

訓練に先立ち、隈本委員長より「これまで教員は自主参加でしたが、今年度から全教員が参加して行くことになりました。ケガなどに十分注意して参加してください。」とご挨拶がありました。

部分訓練は、避難器具オリローの使い方。本学キャンパスでオリローが設置されているのはA棟のみです。他はすべて救助袋です。オリローの使用方の説明を受けてから、実際に数人がオリローを使ってA棟3階から降りる訓練を実施しました。



委員長挨拶と諸注意



避難器具(オリロー)使用方法の説明



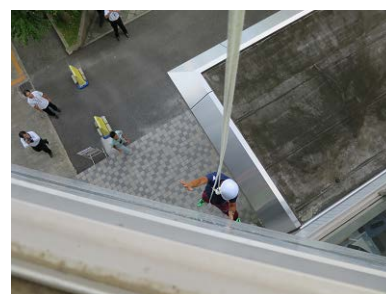
まずはアームを引き出す



調速器をアームに装着



短いほうのロープを体に装着 (長いほうは地上におろす)



ロープから手を離して降りる

※このオリローの使い方はあくまで実施報告上のもので簡単に説明しています。実際には確認事項が他にもあります。オリローは使い方を間違えると落下する危険がありますので、使用の際は十分注意してください。

2. 総合訓練について

総合訓練は、午前中に火災を想定した消防訓練、午後には大規模地震を想定した消防訓練を行いました。

隈本委員長から訓練について説明をした後、学長からご挨拶をいただきました。

総合訓練は、火災時や大規模地震発生時の自衛消防隊の対応行動を訓練するものです。教員と職員の混合チームを2班編成し、さらに各班の通報連絡班、初期消火班、避難誘導班、安全防護班、応急救護班にわかれて火災が起きたときの対応行動について打合せを行いました。

<火災を想定した消防訓練>

火災を想定した訓練は、授業期間中の平日15時頃、A棟5階511研究室から「火災が発生」したことを想定し、以下の訓練想定で行いました。

- ・A棟5階の511研究室から「火災が発生」した
- ・消火失敗で、炎は511研究室周辺の廊下等に広がり、5階の北側階段は避難に使えない。
- ・煙は火災発生約2分後には5階全体に蔓延する。
- ・煙は火災発生約5分後には階段が煙突代わりになりA棟全体に広がる

火災時の行動の基本、煙を吸わないようにする、煙による視界不良で方向を見失わないようにする、パニックにならない・させない、を念頭に置きながら、火災発見時の措置に始まり、通報連絡、消火活動、避難誘導、応急救護といった任務の基本を確認することができました。

<大規模地震を想定した消防訓練>

大規模地震を想定した訓練では、授業期間中の平日 15 時頃、震度 6 強の地震が発生したという想定で、以下の訓練想定で行いました。

- ・授業中で研究室やロビーに教員と学生がいる
- ・建物の被害状況 壁や柱に亀裂、タイルやガラスの破損、天井パネルの落下、蛍光灯の破損や落下、ライフライン異常あり（電気・ガス・水道は止まる）、内線電話は使用可
- ・各フロア 室内残存者あり、自動ドアや窓のガラス割れて散乱
- ・エレベーター 緊急停止、扉開閉困難、閉じ込め者有り（女子学生・自力歩行可能）
- ・要救助者あり（天井落下物が頭部にあたり意識無し・男子学生）
- ・肢体不自由で補助者あれば歩行可能者あり

身の安全を確保する（しゃがむ、頭部を守る、机にもぐる）、危険場所から退避する（窓際、エレベーター内など）、棟内に流れる非常放送を聞くようにするという基本の行動を確認しながら、地震発生時の措置に始まり、通報連絡、消火活動、避難誘導、応急救護といった任務の基本を確認することができました。



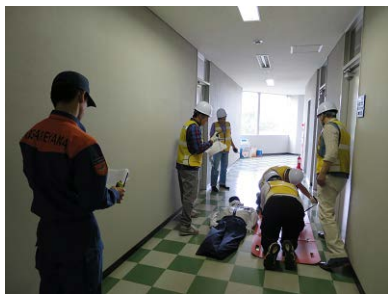
訓練想定打合せ会



学長挨拶



火災①屋内消火栓で消火



火災②
救護班が要救助者を担架に乗せる



地震①防災対策本部(N棟1階)



地震②防護班が散乱物を脇によける。
誘導班が誘導に向かう



地震③避難が始まる



地震④避難場所での点呼



地震⑤消防署役を古里先生に、
119番通報訓練も実施